

## 平成30年度 鹿島市立明倫小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「みつめ 動き 高め合う 明倫っ子の育成」	①心、体、学力の調和の取れた教育の充実 ②CSを推進し、より開かれた教育現場の構築と教職員の資質向上 ③ICT活用教育を含めた指導方法の改善と特別支援教育の充実 ④心の教育の充実と規則正しい生活の習慣化

達成度 A：ほぼ達成できた  
 B：概ね達成できた  
 C：やや不十分である  
 D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① 地域とともにある学校づくりと教職員の資質の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	教職員・児童・保護者に周知させ、認知度を80%以上にする。	○定期的な学校便りの発行 ○授業参観・懇談会の充実 ○保護者との教育相談実施 ○学校運営協議会での意見交換	A	学校の様々な取組を、各種お便りや学校HPの更新により、随時発信した。保護者アンケートでも開かれた学校運営を行っていることに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が99%であった。	定期的に発行する学校便りに、学校HPの更新の情報もお知らせして、HP閲覧者数を増やし、広く学校行事や日々の子どもの様子を伝えるようにする。
	○教職員の資質向上	学級経営に資する授業力向上	国語科を中心に授業研究を行う。	○全職員に対する研修計画作成 ○全学年が全校研実施。全員研究授業 ○講師を招へいし、理論研究の充実 ○初任者及び若手教員の育成	A	全学年が提案授業を実施し、授業力向上を図ることができた。97%の保護者が「教師は分かりやすい授業を工夫している」と回答している。	次年度は、国語科に限らず他教科での取り組みも活性化させ、活用力向上研究の2年目もからめて、より一層の授業力向上を図る。
	○危機管理体制	交通安全事故防止と不審者対応の校内組織づくり	より実践的な交通安全教室と避難訓練を実施し、職員研修の場とする。	○朝の交通指導で交通安全指導の徹底 ○全学年、交通安全教室実施 ○学校運営協議会と連携し地域で見守る体制づくり ○年間3回の避難訓練(不審者、火災、地震)。保護者に対する外部講師による教育講演会	A	PTA、地域、警察、消防署等と連携し、児童のための安心・安全活動を年間を通して実施した。学校運営協議会の積極的な活動で児童の安全を確保していただいた。	引き続き交通安全教室、避難訓練、自転車教室等を各機関と連携して実施し、安全・安心の推進に努める。 教育講演会が保護者の子と建て応援になるように次年度も講演会のテーマ設定や日程の工夫を行なう。
	○開かれた学校づくり	外部評価の結果を公表し、改善に向けた取組を行う。	学校運営協議会による外部評価の改善・充実を図る。	○学校運営協議会で評価内容の検討・改善・工夫 ○保護者・児童・職員アンケート結果を公表 ○学校便り等で学校や児童の様子等の広報 ○子ども見守り隊等への感謝の心の育成 ○地域人材を活用した教育活動	A	毎学期毎に児童、職員のアンケートを2学期に保護者のアンケートを実施し、形成的な評価を行った。また、その資料をもとに、協議会委員に関係者評価を行ってもらう。	今後も学校運営協議会の組織を生かし、地域人材を活用した体験的教育活動に積極的に取り組む。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	元気いっぱいプロジェクトの実施により校務等の効率化の促進	3つの施策(教師の専門性を高める、子どもと向き合う時間の確保、働きやすい環境づくり)により業務を改善し、教職員の意識改革を図る。	○具体的内容の全職員共通理解 ○職員の業績評価の観点見直し ○学校運営協議会との意見交換 ○職員意見を聞く場の設定 ○保護者から評価をし、改善	B	具体的な方策を提示し、業務改善・働き方改革に取り組むことができた。会議の効率的な在り方など、変容がみられたが、職員の意識改革は引き続き取り組む必要がある。	業務改善のアイデアを職員で持ち寄り、それを掲示するなど「見える化」にも取り組む。 来年度は、時間外業務の目標時数など、個々の数値目標を設定し、今年度以上に時間外縮減に取り組む。

② 知・徳・体の教育の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・全国、佐賀県学力状況調査結果の分析と授業の改善	・学習状況調査結果を分析し、児童の伸ばしたい能力を把握し、ことばタイムや授業の改善を行う。	○学習状況調査結果の分析とTT少人数授業への活用 ○学力向上の土台である学習集団作り ○少人数授業や習熟度別授業の実施を促進と補習の時間の確保 ○学力向上サポーター活用事業の有効活用 ○地域素材・人材活用の促進	B	全国・県学力調査結果の分析と、分析を活かした取り組みを実施することができた。しかし、全体的には対全国比、対県比、対「十分達成」比ともに低調でさらなる工夫が必要である。	・算数の習熟度別少人数授業を増やす。 ・宿題の内容の工夫と、保護者との連携を強化し、家庭学習の充実を図る。 ・学力を下支えする読書量の少なさを解消すべく、全学年で目標数値の設定とそれを実現するための方策を工夫する。
	○地域人材活用	地域と連携した教育活動の構築	各学年1つは地域人材等を活用した単元を計画する。	○総合的な学習の時間や教科等での地域人材活用 ○年間指導計画を改善し、地域活用単元の計画 ○きめ細やかな地域連携のコーディネート ○奉仕活動や地域活動への参加	A	地域人材を活用した学習や体験活動を実施することができた。効果的な授業をするために、積極的に情報を収集している。	・総合的な学習の時間や教科の学習で、地域の人材を活用した体験的な活動に積極的に取り組む。 ・年度初めに、人材活用の担当者と担任とで年間計画を確認し合い、確実に実施していく。
	●心の教育	道徳教育の充実と教育相談体制の確立	支援を要する児童に対して学校全体で取り組む。	○道徳科の評価の在り方検討 ○「ふれあい道徳」の実施 ○全職員による組織的な教育相談体制の充実 ○「来てよかった学校づくり」 ○縦割り活動の積極的推進と全児童交流	A	道徳教育研修会や教育相談研修会を実施することができた。SCやSSWとの情報共有や対応策の相談も充実していた。年度末に児童の課題について協議したことを次年度活かす必要がある。	・SCの相談日に、気になる子のカウンセリングを計画的に割り当て、心のケアに努める。 ・SC、SSWの人物やその役割を保護者へお知らせし、理解をはかる。 ・SSWを一層活用し、配慮が必要な児童や家庭を関係機関との連携を強化する。
	●いじめの問題への対応	いじめの撲滅、及び早期発見、適切な対応のための体制作り	いじめの発件数0を目指し、常時児童の人間関係等実態の把握に努める。	○毎月いじめ等学校生活アンケート実施 ○人間関係把握のためにQUテスト実施 ○学校生活支援員の有効活用 ○児童に関する情報共有する場の設定	B	定期的なアンケートや保護者への調査、児童との個人面談、QUテストの実施等を通して児童の実態把握に努め、早期発見と対応に心がけた。本校の取り組みの周知が十分できなかった。	・SCの相談日に、気になる子のカウンセリングを計画的に割り当て、心のケアに努める。 ・教育相談担当職員を中心として、児童理解に努める。 ・いじめの問題へ学校がどんな姿勢でどのようなことに取り組んでいるかお便りを発行し周知する。
	●健康・体づくり	・運動習慣の改善や定着化 ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	体力向上・健康増進につながる体育行事や児童集会を仕組む。	○魅力的な体育授業の実践 ○佐賀県のスポーツチャレンジの取組や 時季に合わせた「持久走」「なわとび」等の実施 ○学校栄養職員・食育担当職員を中心にした取組の充実 ○家庭と連携し、目標朝食喫食率9割以上	A	体育的行事、縦割り活動、委員会活動等では、児童の主体性を活かした活動ができた。また、本校で体育授業研究会を開催し、授業力向上の取り組みができた。朝食喫食率も90.4%であった。	・マラソン等頑張った児童を賞賛する場を設け、意欲の喚起につなげたい。 ・体力向上につながる魅力的な授業の実践を一層目指す。 ・栄養教諭と連携した授業に積極的に取り組み、食育推進を一層進める。

**③ 指導方法改善と特別支援教育の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣の定着	保護者アンケートで「おおむね良好」以上を90%以上にする。	○生活習慣・学級習慣指導計画作成 ○保護者との連携、信頼関係構築 ○複数の目で見守り、個に対応	B	学年便り、学級便りの発行、連絡帳の活用等で、保護者との連携を密にすることができた。取組の広報活動や検証のためのアンケートが十分できなかった。	・個別に支援が必要な児童への対応を、担任だけでなく、級外、支援員がチームとなって個に応じた支援を強化していく。 ・低学年への取り組みを検証する学校評価項目を新設する。
	○指導方法改善(少人数・TT)	習熟度別・課題選択学習の充実	上学年の少人数指導においては、学期に1回習熟度別クラス編制を行い、補充・深化を図る。	○多様な指導方法の工夫 ○デジタル教材やICT機器の活用 ○学力調査等を活かした補充指導の充実 ○宿題等の内容工夫と家庭との連携強化	B	少人数指導の実実施時数を学期毎に見直し、指導が必要な学年に実施した。学級や学年で習熟度別指導を実施した。少人数授業やTTによる授業の取組についての広報が不十分であった。	・指導法改善担当がリーダーシップを発揮し、分析結果を活かした授業改善に取り組む。 ・学年や学級の実態に応じた時数配当など、重点指導を行うことで効果を上げるよう取り組む。 ・TTや少人数授業を授業参観で計画的に公開し、そのお便りの発行し、保護者への周知を図る。
	○特別支援教育	特別支援教育の充実	支援を必要とする児童の実態を把握と共通理解を図る。 個に応じた支援を行う。	○支援の必要な児童の実態を把握 ○校内支援委員会(7月、10月)開催 ○学校生活支援事業を活用し、個別支援の充実 ○個別の教育支援計画を作成。 ○特別支援教育に関する研修会開催	A	職員研修会やケース会議を実施したり、巡回相談を活用するなど児童理解に努め、支援に生かすことができた。しかし、支援を必要とする児童数が増加傾向にあり、校内の支援体制構築や支援員等の人数確保が課題である。	・支援を必要とする児童について、全職員で共通理解を図ったり、特別支援教育の研修会を開いたりして、児童理解に努める。 ・専門的知識や経験を持つ外部専門機関と積極的に連携して、支援の効果を上げる。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

・保護者アンケートからは、本校の教育活動に対しておおむね良好な評価を受けている。児童や保護者への対応についても評価が高く、何に對しても「ていねいに」「すばやく」対応する姿勢で教育活動に取り組んでいる成果が出ているものと思われる。全国及び佐賀県の学力検査の結果は、全体的に低調であった。TT授業や少人数指導の工夫や時数配分などを工夫し、学力の底上げを図る必要がある。

・CS(学校運営協議会)の協力を得て、児童は安全に安心して地域で過ごすことができた。地域の人材を生かした活動として、今年度は面浮立の面づくりに取り組めた。しかし、地域の人材を生かした学習に学年や学級によって偏りも見られたため、年度当初に、担当者と学年担任と連携して計画を立てる必要がある。今後も、児童に地域の文化や良さを理解させるために、地域人材を有効に活用していきたい。

・学習面、生活面で、ほとんどの児童は規律正しく、意欲的な学校生活を送っている。気になる子、家庭環境の不安な子などに対して、職員は児童理解を深め、組織的に対応するように努力した。個別に対応が必要なケースが徐々に増えてきているので、SCやSSWも交えたケース会議を行い、鹿島市の福祉課や民生児童委員とも連携して対応していきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目